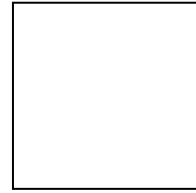


2006 年度秋学期憲法演習課題メモ

第 7 回 経済的自由権

学籍番号 _____ 氏名 _____



職業選択の自由の内容

二重の基準論

目的二分論

海外渡航の自由

特別の犠牲

正当な補償

第7回 予習のポイント

1. **薬局距離制限事件**の最高裁判決を読み、憲法 21 条 1 項の定める職業選択の自由の意義についての判例の立場をまとめよ。
2. いわゆる二重の基準論について説明せよ。また、判例は、この理論を採用しているといえるか。
3. 経済的自由権に対する規制に関するいわゆる目的二分論について説明せよ。また、判例は、この理論を採用しているといえるか。
4. **小売市場距離制限事件（最大判昭和 47 年 11 月 22 日刑集 26 巻 9 号 586 頁）**の最高裁判決において、小売市場の開設に関する距離制限は、いかなる目的に立った規制であると認定されているか、また、その合憲性はどのように判示されているか、それぞれ説明せよ。

5. **薬局距離制限事件**に関して、昭和 38 年改正前の薬事法 6 条 2 項は、配置の適正を欠く場合には薬局開設の許可を与えないことができるとし、同 4 項は配置適正基準を都道府県の条例によって定めると規定していた。これらの規定の立法目的は何であると考えられるか。

6. **薬局距離制限事件**の最高裁判決において、医薬品の一般販売業の許可に関する距離制限は、いかなる目的に立った規制であると認定されているか、また、その合憲性はどのように判示されているか、それぞれ説明せよ。

7. 昭和 30 年の**公衆浴場距離制限事件**の最高裁判決において、公衆浴場の設置の距離制限は、いかなる目的に立った規制であると認定されているか、また、その合憲性はどのように判示されているか、それぞれ説明せよ。

8. **公衆浴場距離制限事件**に関して昭和 30 年に最高裁判所が示した判断は、今日においても妥当するといえるか。